

あなやま

社会福祉法人 信和会

〒407-0263

山梨県韮崎市穴山町 5164

TEL0551-25-5900

FAX 0551-25-5906

<http://www.sip-shinwakai.jp>

編集責任者 栗原 信



穴山町伊藤窪～御名方神社～

わ～く穴山の里施設長就任にあたり



社会福祉法人 信和会 多機能型事業所 わ～く穴山の里 施設長 小泉 修



このたび9月1日付で、多機能型事業所「わ～く穴山の里」の施設長及び共同生活援助事業所3棟、共同生活介護事業所1棟の管理責任者に就任いたしました小泉です。

障がいのある方々が地域で自分らしい生活を送る共同生活事業所は一般的に「グループホーム」、地域で生活しつつ、介護が必要な共同生活介護事業所は「ケアホーム」と呼ばれています。そして「わ～く穴山の里」は一般企業から仕事を受託し訓練を受けながら働いて工賃を得る『就労支援事業B型』を主体として展開しています。ご利用者はグループホームやケアホーム、又は自宅から通われています。

就任して1ヶ月余りが過ぎましたが、朝、わ～く穴山の里へ来ると、明るく屈託のない笑顔で「おはようございます」と挨拶が聞こえます。時には落ち込んで元気が無いご利用者、はしゃぎ過ぎてしまうご利用者、一人一人の状態に合わせて、家族の様に優しく時には厳しく接する職員を見ていると障がいの有無にかかわらず一生懸命目的にむかって取り組んでいる姿勢がとても強く感じ取れます。

「働く力」とは、単に仕事をこなせるという事では無いと私は思います。仕事を続けていく体力・立居振舞い・マナーやあいさつ、そして自分が出来ないことや困ったことに対する援助の求め方に至るまでの総合的な力の習得を基本におき、職員は日々の業務にご利用者は作業にと取り組んでいます。

ご利用者には仕事を固定せずに様々な作業をローテーションで体験したり、一人一人の個性に合わせて役割分担するなど、活動や作業内容の種類の積重ねにより職域が広がり、想像以上に生産性が上がり、その能

力に驚かされました。またグループで働くことによって一人では出来なくても、それぞれ補いあい自分の得意なところを分担することにより責任感を持つようになりました。出来たという自信から自然と持続力も芽生え、働く事によって得られる達成感も伝わってきました。

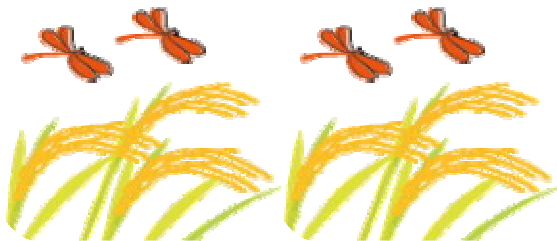
一方で、まだ多くの障がい者の方々が働く場を求めており、障がい者雇用の厳しい現状が続いています。失業率もまだ高く、働きたいのに働く場所のない人達が多く存在する中で、障がいを持つ方々の雇用を拡大していくには現時点で限界があります。

わ～く穴山の里としての役割はなにか・・・単なる通所事業所で「働きたいと願う人をどう訓練すれば良いのか」という観点だけではなくプラスワンとして「働き続ける場」として、障がい者の地域での暮らしを支える仕組みも含め全職員が考えを一つに運営していかなければならないと思います。

私は、福祉分野の知識・経験は、まだ8年と短く未熟ですが、障がいを持つ方々と関わる中で多くの事を考える機会を得ました。特に地域や企業は障がいのある人達がどんな人達であるのか、私達事業所がどんな取り組みをしているのか、理解をしていただける場を多く設ける必要があると感じました。一度二度の交流では、その場限りで終わってしまいます。一人でも多くの方が積極的に多くの機会を通しふれあう事でこそ相互理解が生まれると信じております。

本来、施設の【施す】という意味は3つのものが揃ってこそ成り立つのです。施す人、施す物や行為、そして、その施しを受ける人。真の福祉とは施設だけでなく社会としてこのトライアングルが成り立ってこそ実現されるのではないのでしょうか。

これからも職員一丸となり、行政・地域と連携を図り福祉事業を取り巻く環境を少しでも多くの方に理解してもらえようご利用者と共に働く土壌を整えていきたいと思っております。



本部だより

社会福祉法人 信和会 法人本部
〒407 - 0263 韮崎市穴山町 5390
0551-25-6100
E-mail: honbu@sip-shinwakai.jp



理事会・評議委員会報告

- 開催日：平成23年8月6日(土)
開催場所：穴山の杜 集会室
審議次項：第1号議案 人事について
第2号議案 農地購入について
第3号議案 建物改修について
第4号議案 その他



平成23年度 第2回目の理事・評議員会で上記の議案が審議され、すべての項目について承認を得られたことをご報告いたします。

特記すべき事項としては、第2号議案の農地購入について、この度、農業委員会の許可が下りましたので、購入契約し、障害者の自立支援に活用いたします。

穴山の杜敷地進入路までの市道の舗装工事が10月3日に無事終了いたしました。工事中は皆様にご協力をいただきありがとうございました。

農地購入に伴い、今まで以上に地域の方々のご指導ご協力を頂きたく、よろしくお願い申し上げます。

また平成23年5月、決算理事会にて承認されましたので、下記のとおり財務諸表の公開をいたします。

平成22年度 決算報告

貸借対照表

単位千円

流動資産	498,076	流動負債	144,936
基本財産	720,472	固定負債	404,045
固定資産	450,262	負債の部合計	548,981
		基本金	218,493
		国庫補助特別積立	359,284
		その他の積立金	25,016
		次期繰り越活動収支差額	517,036
		純資産部合計	1,119,829
資産の部合計	1,668,810	負債及び純資産合計	1,668,810

事業活動収支計算書

単位千円

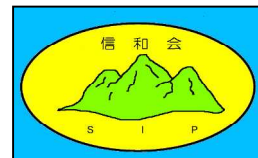
介護保険収入	273,875
自立支援費収入	264,318
就労支援事業収入	9,809
その他の収入	68,337
国庫補助金等特別積立金取崩額	185,072
事業活動収入計	801,411
就労支援事業支出	9,081
人件費支出	346,031
事務費支出	73,219
事業費支出	78,013
その他の支出	68,337
事業活動支出計	574,681
事業活動収支差額	226,730
事業活動外収支差額	-973
経常収支差額	225,757
特別収支差額	-191,583
当期活動収支差額	34,174
次期繰り越活動収支差額	517,036

昨年度はケアホームの建設へ着手また、障害者支援施設として新法へ移行し、職員の人数も増やし事業運営をしました。

経理区分：本部・【特養】入所・【障がい】生活介護・施設入所支援・就労支援B・生活訓練・グループホーム・ケアホーム・日中一時支援・短期入所

穴山の里だより

障害者支援施設 穴山の里
〒407-0263 韮崎市穴山町 5164
0551-25-5900
E-mail : sato@sip-shinwakai.jp



施設長 小林 初男

施設長就任にあたって

9月1日付けで穴山の里施設長に拝命されました小林と申します。思い起こせば前職を早期退職して職探しに奔走していた折、ここ信和会にお世話になることになりました。その最初の勤務先が穴山の里でありました。里では1年程支援に携わり、その後、特別養護老人ホームの設立準備から運営と4年、そして、障害者通所施設の施設長1年半と7年が経過しようとしております。信和会は長い歴史の中、その存在感は穴山に

根付いていると思いますし永遠に不滅でなければ成りません、したがってその任務は重責で在ると肝に銘じております。

障害者を取り巻く福祉サービスは“自立と自己決定”のもとにご利用者自らサービスを選ぶ利用者本位のサービスの提供へ変わりました。処遇の移り変わりでその対応に苦慮するところは在ります。しかし、私は、障害のために社会的に自立して生活することが困難なご利用者のためにその『生存権の保証』が最も重要な役割で有ると認識しています。

昨今、社会福祉法人、自治体等以外もこの業界に参入し利用者にとっては、サービスの選択肢が用意された環境になりました。“穴山の里”の存在感を出していく必要に迫られていると思います。

今後も、より良いサービスを提供出来るよう、人材の育成及び運営体制にも柔軟性を積極的に取入れたいと思います。そして施設とご利用者のリスクを洗い出し、事故防止などの安全性や透明性等、質向上に努め、風通しのよい明るい組織及び風土作りを目指して行きます。引続き、保護者等とも密に情報交換を図り、一人一人に合った個別援助また支援にチーム及び組織全体で取り組んで行きたいと思っておりますので緒先輩方にはご助言ご協力の程よろしくお願い致します。



安来節にふれて



地域ふれあい夏まつりにて、穴山の里では安来節を披露しました。角田恵子講師（伊藤窪在住）指導のもと日々練習を重ね無事終えることができました。また安来節の奥深さ・歴史の深さを学ぶ貴重な体験となりました。安来節はひょうきんな表情と微妙な腰の動きが特徴とのことですが、いざ取り組んでみると上手いかず、悪戦苦闘の日々でした。参加した利用者さんの練習熱心な姿に私達も感心し「自分たちも頑張らないと」という気持ちで取り組みました。今後も様々な活動を通じ、利用者と共に安来節を披露する機会を広めていきたいと思っております。

障害者文化展



8月下旬、第14回山梨県障害者文化展が開催されました。穴山の里から出品した作品の中から手芸班が取組んだ、貼り絵『穴山の春』が奨励賞に、個人作品ガラス細工『ペンダント』が見事に入選いたしました。貼り絵は新聞のカラーの部分を利用して、穴山の里の入り口風景を作成しました。色の濃淡を表現するのが難しかったです。



摂食・嚥下セミナーに参加して

穴山の里 栄養士 渡邊 綾

7月8日に社会福祉法人武蔵野会々くら学園「主催の摂食嚥下セミナー」に参加しました。

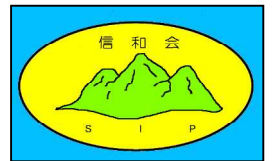
このセミナーは、食物による誤嚥や嚥下事故を避ける為、嚥下に関するさらなる理解を深めるということを目的として行われました。今回は日本大学歯科学摂食機能療法学の戸原先生が、人はどのようなものを飲み込むのか又その時の喉の状況を実際に内視鏡を使って見せてもらい、パンゆで卵焼き魚等のパサパサしたものは口の中で水分を奪ってしまい、口の中や歯にへばりつき乾いて喉に詰まりやすいということや、お茶水ジュース等のサラサラした液体や粘度の低い食品は、嚥下反射が起こる前に気道に入ってしまう危険性があることを福祉職の私たちに分かり易く説明していただきました。

一般的に、摂食嚥下とは食物を認識して口に取り込むこと始まり、胃に至るまでの一連の過程を指し、先行期（認知期）準備期（咀嚼期）口腔期咽頭期食道期といった、5期に分けて説明されています。このいずれかに障害がみられる場合を「摂食嚥下障害」として、誤嚥性肺炎や脱水、低栄養さらには食べる楽しみ、欠如などの様々な問題が生じてきます。その為、私たち栄養士はその人に適した食物の提供を選択し、食事がスムーズに行えるように工夫しなければなりません。

今回の研修で学んできたことを、職場でも実際に生かしていきたいです。一人一人が食事を楽しめるような環境づくりを心がけていきます。最後に「口から食べる」という当たり前の行為は、生命維持にとって必要な栄養摂取の手段だけではなく、その人らしく生きる為の重要な「行為」であり、口から食べることを支えることは、その人らしく生きることを支えることであると再認識する内容でした。

わ〜く穴山の里だより

多機能型事業所 わ〜く穴山の里
〒407-0263 韮崎市穴山町 4433-1
: 0551-25-5866
E-mail : work@sip-shinwakai.jp



9月1日より、わ〜く穴山の里に、グループホーム・ケアホームの事務所が併設されました。これにより、わ〜く穴山の里の利用者で、グループホーム・ケアホームに居住する方の支援を、昼夜一括で行うことができるようになりました。より良い支援を行い、地域移行支援の新たな方向性につなげていきたいと思っております。



清里の森散策



うちわ作り (母介護)



ぶどう狩り



なごみの郷 敬老の日訪問

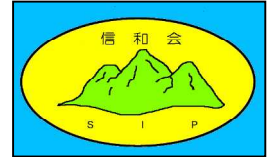
昨年の4月より、穴山の杜から、わ〜く穴山の里へ異動となり、1年5か月が過ぎました。水耕栽培の担当職員として頑張っていますが、当初は水耕栽培についての知識もなく不安でした。前任の職員さんから指導をして貰いながら、何とか現在に至っています。取り組む課題等はまだまだありますが、わ〜く穴山の里の職員として、精一杯頑張っていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。

職業訓練指導員
穂 阪 範 男



穴山の杜だより

特別養護老人ホーム穴山の杜
〒407 - 0263 韮崎市穴山町 5390
0551-25-6100
E-mail : mori@sip-shinwakai.jp



5周年を迎えて・・・

10月1日穴山の杜は開設5周年を迎えました。この5年の間に120名を超える方々にご入居・ご利用をいただき多くの皆様から感謝、御礼のお言葉を頂戴いたしました。入居者にとってご家庭での生活と同じ様に快適に暮らして頂くと共にそのご家族様にも信頼され、安心できる終の棲家としての大切な役割を担いながら介護をして参りました。

まだまだ多くの方々に入居をお待ちしていただく状況が続いており、大変心苦しく思っておりますが、これからさらにお一人おひとりに寄り添った充実した介護が提供できますよう、職員一同研鑽を重ね皆様のご期待に応えたいと思います。

トピックス秋編 秋季大運動会

9月7日、恒例の運動会が行われました。天候にも恵まれ気持ちの良い秋の太陽をあびて、普段は室内で過ごすことの多い利用者も元気いっぱい楽しく競技に参加されていました。

競技種目は、玉入れ、ボール倒し、借り物競走、パン食い競争の4種目。ボール倒しでは、なかなか瓶が倒れてくれず苦戦していましたが、職員との連携プレーで粘り強く最後までがんばっていました。



ユニット対抗ということで、「ガンバレ！ガンバレ」と応援にも熱が入っていました。

接戦の末、今年の優勝は、亀一丁目ユニットが獲得しました。最後に、皆さんパン食い競争で勝ち取った戦利品のアンパンをおやつに頬張りながら、今日の運動会の反省会をしました。



ご家族対象

環境整備&昼食会

施設には毎月200名を超える方、多い月には400名の方が来所されますが、利用者のご家族、職員を含め何かを一緒に行うことがなかなか出来ません。元気な顔を見ていただいても、毎日どのように生活しているか、どのような食事をされているかなど、直接感じ取っていただく事は難しいと思っています。そこで施設での様子や職員の対応を見ていただき、

これまで以上に良い関係を築けるように、また風通しの良い施設にするため、初の試みとしてご家族対象に環境整備・昼食会を計画しました。参加後にはアンケート記入もお願いし、ご家族の意見や感想をいただきました。ご家族からは『よい機会であった』『日ごろの様子が分かった』『また参加したい』など、とても好評でした。

これを機にご家族、施設が協力し、ますます利用者の生活が楽しいもの、満足していただけるものとなるよう、職員一同頑張っていきたいと思っております。



昼食会の様子




環境整備の様子

～取り組み紹介 その2～



平成23年度 各委員会活動の紹介

今年度の穴山の杜事業計画に盛り込んだ全職員参加の7つの委員会活動について、その活動目的及び、内容について紹介します。今回は2つの委員会の紹介と活動内容です。

委員会名	目的	実施内容
介護事故、拘束防止委員会 委員長 成島 綾	利用者一人ひとりの危険行動を把握共有し“事故防止と拘束ゼロを目指す”	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月定例会議を実施し各利用者別の“危険予則一覧表”を基本にした介護の検討。 ・毎月利用者を特定し危険予測についての話し合いを行い事故防止に努める。 ・ヒヤリハットの提出件数の確認 ・事故報告の検証と防止策の強化・・・委員会のメンバーも検証に参加することで再発防止に役立てる。 ・利用者居室内の安全点検・・・各ユニットの個室を巡視し、問題点の把握と安全のための対応策をとる ・危険予知（KYT）研修・・・『KYTの講習とグループワーク』についての施設内研修実施
環境整備委員会 委員長 千葉 一樹	施設外の環境整備、美化に努める。 施設内の清掃、クリーン活動の推進 	外部環境の整備 建物周囲の除草、特に浴室前の庭園の除草 夏祭りに向けた芝生広場のゴミ拾いや整備 各フロアー、各ユニットのベランダの花壇作成 各ユニットベランダ等の床や壁のクモの巣、燕の糞などの汚れを高圧洗浄機でクリーニング 内部環境の清掃 各フロアーの床洗浄、清掃 各居室の空調機フィルターのクリーニング 上記の作業を勤務表に基づき全職員が勤務終了後30分～1時間の予定で順次実施した。

彼岸花が咲きました！

新春号で紹介しました彼岸花が立派に根付き花を咲かせました。南アルプス市の田中様の葡萄畑の下に植えられていた、たくさんの球根をいただいたものです。

葉がある時は花がなく、花が咲くときは葉がなくなることから葉見ず、花見ずと言われているように花だけが秋の訪れを告げております。

以前は田んぼの畦や土手などに多く見かけましたが、耕地整備等でコンクリートの畔になってしまったためか見かけることが少なくなりました。埼玉の日高市の巾着田には100万本の深紅の彼岸花が一斉に咲きそろう見ごたえのある景色のようです。近隣の方々を始め多くの方が訪れて鑑賞しているそうです。

穴山の杜に頂いた球根を大事に育てていき毎年花の咲くこの時期を楽しみたいと思います。



宇宙大豆のその後

宇宙から帰ってきた、ナカセンナリ(大豆)は山梨県立農林高等学校で大切に育てています。今、宇宙大豆はどうなっているのでしょうか？そこで、農林高校システム園芸科 清水 良憲先生に穴山の里の長田がインタビューしてきました。

長田：宇宙大豆は今どんな状態ですか？

清水：農林高校では宇宙大豆と地球大豆に分け、同じ条件を揃えて発育の比較をし、データを取っています。預かりました宇宙大豆40粒の内、30粒は10号(直径30cm)サイズの鉢で、一粒ずつポット栽培しています。

長田：何で鉢で育てるのですか？

清水：直接土に植えてしまうと成分が必ずしも均一ではないので、成長に差が出る可能性があります。

長田：同じ条件で育てていて、現状差はありますか？

清水：生育状況は目にみえるような差はないようです。

長田：宇宙大豆はどのくらいまで大きくなりましたか？

清水：現在、大豆は葉が青々と繁りさやもそこそこ太って来ました。収穫にはもう少しかかりそうです。

長田：残りの10粒はどうするのですか？

清水：培養実験に使用する為に育苗しているところです。培養には寒天培地を使う予定です。

長田：培養ですか？寒天を使って増やすんですか？

清水：成長に必要な養分などを寒天で固め、それを使って培養するんです。培養する目的は大豆のクローン苗を作る事です。せっかく宇宙へ行ってきた大豆なので、そのクローンを残そうという発想です。実は、技術的に大変困難な事ですが、『うまいくかやってみよう』という高校生の取り組みです。今まで市販の大豆で練習実験をして来ました。いよいよ宇宙大豆を使って実験する事になりました。途中の過程までは出来ると思いますが、クローンが出来るかは運次第ですね。

長田：クローンが出来るとすごいですね。

清水：頂いた大豆を大切に使用しております。今後ともよろしくをお願いします。

長田：こちらこそよろしくをお願いします。ありがとうございました。

今回インタビューを終えて、こんな身近でクローンの実験がされている事を知り驚きました。また、高校生からクローンを作りたいという意見が出て、取り組んでいると聞き、学生の前向きな姿勢に感動しました。

写真提供：農林高校



感謝録

(平成23年6月16日から平成23年9月15日)

～ご寄付を頂きました～(敬称略)

ありがとうございました。感謝いたします。

石澤 應彦・栗原 阿さ・小林 由美子・櫻井 鴻朔
櫻井 民子・冬頭 修二・尾林 久常・朽木 康悟
貝瀬 勝政・長田 一人・平本 日出子・岩下 幸夫
石井 紀代美・中村 正信・三井 友明・横山 むつえ
セレオ・サンカイゴ・石橋電気保安管理事務所・富士産業
ワタキューセイモア・細田設備

～ご協力を頂きました～(敬称略)

ボランティア

角田 恵子(安来節)・千野 公洋(太鼓)・石澤 一恵
成瀬 翼・葦崎高校・穴山の里保護者会・佐藤 まゆみ
ボランティア協会 穴山支部

訪問録

(平成23年6月16日から平成23年9月15日)

教育実習(敬称略)

聖徳幼児教育専門学校

石井 菜津・森 綾乃・上松 優希・澤田 祐美

聖徳大学

達川 麻菜・岡村 鮎香

山梨学院短期大学

秋山 亮・奈良 直樹・松岡 雅之・松永 千奈美

三森 加奈子・竹川 仁美・伊藤 裕希

帝京学園短期大学

太田 絵美梨・望月 菜月・清水 彩・榊 志乃

甲斐清和高等学校

丸茂 友衣・横森 夕子・保坂 由莉

優和福祉専門学校

増田 美咲・影山 亜美・石井 久美・市川 一二三

深沢 裕道・朴 美淑・雨宮 千鶴・栗澤 由紀

小田切 和徳・北村 優子・秋山 順子・安部 順美

湯原 愛・中村 るり子・功刀 斉治・手塚 孝樹

渡邊 恵・新井 公子・相川 亘

(財)総合健康推進財団

小村 榮彦・清水 美代子・小林 恵美・齋藤 啓子

高原 栄子・大口 よしみ・野田 陸子・清水 哲雄

施設実習(敬称略)

わかば支援学校

岩間 大河・名取 慶介

編集後記

金木犀のよい香りが漂い秋を感じる季節となりました。もう少し経つと木々の葉も色づき始めます。皆様も秋を満喫してください。